

説明のため出席した者の職氏名

市長	財部 能成君
教育長	梅野 正博君
しまづくり戦略本部長	平山 秀樹君
総務部長	桐谷 雅宣君
総務課長	有江 正光君
総合政策部長	平間 壽郎君
市民生活部長	俵 輝孝君
福祉部長	仁位 孝良君
保健部長	福井 順一君
農林水産部長	阿比留勝也君
建設部長	西村 圭司君
水道局長	増田 敬一君
教育部長	豊田 充君
中対馬振興部長	多田 満國君
上対馬振興部長	園田 俊盛君
美津島行政サービスセンター所長	根メ 英夫君
峰行政サービスセンター所長	三宅 一郎君
上県行政サービスセンター所長	永野 清利君
消防長	竹中 英文君
会計管理者	阿比留 保君
監査委員事務局長	松尾 龍典君
農業委員会事務局長	春日亀剛一君

午前10時00分開議

○議長（堀江 政武君） おはようございます。

報告します。齋藤久光君より欠席の届け出があっております。

ただいまから議事日程第3号により、本日の会議を開きます。

日程第1. 市政一般質問

○議長（堀江 政武君） 日程第1、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は3人を予定しております。それでは、届け出順に発言を許します。15番、大

浦孝司君。

○議員（１５番 大浦 孝司君） おはようございます。一般質問でございますが、今回は一問一答を重点に考えております。極力、本文を省略して申し上げます。よろしくお願いします。

通告に従い、市政一般質問を行います。

対馬猪鹿活用促進事業については、平成２５年度から平成２７年の３カ年の間、８，３７４万円の巨費を投入しており、本年度は最終年度とお聞きしております。その他関連した事業等もございしますが、対馬市がこれまでやってきた本事業に対する成果について、どのように捉えておるか。そして、また関連する事業をどこまで成功させておるか、その思いをお聞きしたいと存じます。

それと、今後、来年以降の市の方針は、どのようなことに基本を置いて、これを展開していこうと思うのか。このことについても、詳しくお話を求めたいと思います。

なお、この２８年の市の方針については、本日、全協の申し出により、その資料をいただいております。このことを、既にいただいたものとして、本日の、きょうの、まあ市長の答弁の内容と、若干触れてみたい点もありますので、その点は承諾をお願いしたいと存じます。

それと、最後にですが、市と同様、民間サイドでは、今年度より、対馬全島を対象にイノシシ、鹿の収集と生肉加工品、そしてペットフード原料等の生産販売を実施する運びとなっております。

この点につきまして、市の行う方向と、この民間サイドの方向性、これを市長はどのように捉えておるか。コメントがあれば、お聞きしたいと存じます。

簡単ですが、質問の趣旨は以上で省略いたします。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 議員の御質問に答えさせていただきます。猪鹿活用促進事業等の成果についてということでございます。

このイノシシ、鹿につきましては、今までといたしますか、過去２０年近くにわたって、対馬市民が苦しめられている現実があります。これにつきましては、過去より取り組みをずっと進めてきておりまして、今まで約１６億円の巨費を投じてきているものであります。

この間、捕獲頭数につきましては、イノシシ、鹿合わせますと、約８万９，０００頭のイノシシ、鹿を捕獲をしていただいたところであります。

また、鹿を対象とした防鹿ネット、イノシシを対象とした金網フェンス等の設置等が、約９００キロ以上にわたって、特にイノシシの金網につきましては、張りめぐらされるというほどの甚大なる被害を島に及ぼしているところであります。

これらにつきましては、捕獲補助金、それから防護対策としての防鹿ネット、イノシシ用の金網フェンス等で、約１５億円という巨費であります。先ほど申しましたように、１６億円のうち

の15億円をそこに投じてきたところであります。

これらのやり方という、進め方というのを、十数年間、ずっとやってまいりました。しかし、なかなか被害というのが収まらないという中で、猪鹿活用促進事業というものに、25年度から踏み込むと。方針を一部追加をして、取り組んできたところであります。

この活用促進事業等につきましては、その被害対策として、現状の防護柵の設置状況というものを、きちんと調査をするということ。それから、GPS機能付デジタルカメラによる、わなの設置箇所の登録。それから、捕獲されたイノシシ、鹿の性別などを現場において確認を行い、これらで得られた情報を地図上にプロットをし、誰でも見られる形にいたしております。

利活用については、大阪府立大学との連携協定により、猪鹿衛生管理ガイドラインを作成をし、手順に沿った解体を行い、加工品の製造、実証販売にも取り組んでおります。

皮もなめし加工を施し、レザー教室や中学校の授業など、普及啓発活動として活用をいたしております。

このような取り組みを通して、各地区において学習会を開催をし、自己防衛の意識向上を図れ、捕獲従事者と地区が協力して、捕獲を実施できる地区捕獲隊を、今日まで女連、上槻、安神、それから佐賀のこれら4地区で、結成することができております。

利活用については、先ほど申しました大阪府立大学での肉の検査において、市販の豚肉、鶏肉よりも細菌数が少ない結果が出ており、消費者に対して、安心して提供できるものと考えております。

加工品についても、添加物の少ない商品などをつくることができおり、今後、民間による、加工品製造の大きな力になり得るものと確信をしております。

そういう中、市民の皆様有害鳥獣問題の現状を伝えながら、今後も被害対策、捕獲隊の結成、利活用促進に向けて、積極的に取り組む方向性であります。

また、山林における被害は、杉、ヒノキにとどまらず、希少な動植物まで及んでおり、深刻な問題となっております。各関係機関と連携を取り合い、捕獲体制の確立を図り、自然環境の改善に向けて取り組んでまいりたいというふうに考えております。

次に、民間事業に対してのコメントということがございました。今までの市の取り組みは、まさに、民間が参入されるときの手助けになれるよう取り組んできたつもりでもあります。

衛生管理ガイドラインによる指針は、検査結果により実証され、的確な解体手順が示されたものと考えております。

有効的な資源活用を目指した新たな産業創出に向けて取り組まれる姿勢に対しまして、感謝と敬意を申し上げたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） どうもありがとうございます。

きょうは、事業の中身について、幾らか細部にわたって申し上げます。もし、市長が答弁に、詳細がわからない場合は担当部長のほうに、議長、まあひとつ求めるということで、よろしくお願いします。

先ほどありましたように、25年からこの事業を取り組んできた。で、25年度は当初予算じゃなくて補正予算で、たしか12月ぐらいの補正だったと思います。これは、702万5,000円。これが、実績として上がっています。

そのときにやったことは、臨時職員9人を雇用し、集落周辺に設置されている防護柵の現状調査を実施したということで、防護柵が実際、果たして農地を安全に守っておるか。そこらのチェック点検があったそうでございます。これで車を借り上げて、複数の人間で対馬全島を回ったというふうな報告に、決算書ではなっております。

それからですね、26年度に注目したいと思います。これは、26年度は3,400万相当の金を充当しております。国費が1,500万、約2,000万相当が、市債と一般財源で対応しております。

中身は、現場の確認を3台のトラックで各2人ずつ乗り込み、現地の捕獲されたイノシシ、鹿の重量、体長等、写真撮影等、そういうふうな検証行為を行っております。

14名の賃金総額1,900万、車借り上げ320万相当、燃料が300万相当、このようなことになっております。

プラス、猪鹿加工処理施設補修工事、これは加志の元旧町時代の鹿の解体施設を550万相当で改修し、備品購入、これが250万相当を充当しております。

このことについて、若干触れたいと思います。このことについては、加工処理施設工事の方向性。このことの定義は、加工品の商品開発、そして生肉等のいわゆる需要の調査。このようなことに、定義はなっております。

重複いたしますが、26年度から27年度の動きの中で、どのようなことに実績を上げられておるのか、再度お尋ねしたいと思います。もし、市長が把握しておられなければ、部長のほうにお尋ねします。

○議長（堀江 政武君） 農林水産部長、阿比留勝也君。

○農林水産部長（阿比留勝也君） 26年度、27年度以降の実績ということでございますが、このことにつきましては、今年度の5月から、商品の開発で実際に売っております。その中で、新たに商品として4品目ほど、現在、ソーセージ等を含めて売っております。

今後のことということでございますが、今後につきましても、そういったものを、開発をした

ものを民間に移譲をして、民間サイドでつくってほしいという思いがあります。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 具体的に4品目は、私も加工品は見させていただいたんですが、販売実績がですね、どのくらい、27年度途中で結構なんです、26年度。重複しますが、再度、皆様もお聞きしたいと思いますので、できれば部長さんでも結構です、実績を。

そして、どのような方面に市場調査をしたのか、これをひとつ、答弁をお願いします。

○議長（堀江 政武君） 農林水産部長、阿比留勝也君。

○農林水産部長（阿比留勝也君） 実績でございますが、26年度につきましては、実績はありません。27年度につきましては、先ほど申しました5月以降の実績としましては、約30万ちょっとぐらいですね。

市場調査ですけれども、現段階では、大阪のほうのマルシェというグループ会社があるんですが、そのあたりとちょっと話をしてるぐらいで、まだ具体的にどこに卸せるというふうなことは行っておりません。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） それでは、27年度、本年度が4,254万円相当の当初予算の計上であります。同じく似たようなことがなされておるんですが、私も現場を把握するものとして、8,000万相当のお金の使い道について、もう少し、こう実のあるようなことが浮上してこないかなと思うんですが。

市長、その辺は少し、私は、投じた金の割には、いまいちというふうな思いをしております。まあ自分がなされたことを批判することはありませんでしょうが、ちょっと寂しい思いがするんですが、どうお考えですか。

この3カ年に8,300万相当超えておりますね。現場では、そんなに期待が、あるいは何かいい方向になったというふうな思いが、いまいちと思います。実感としてそう思ってますが、市長はどう思ってますか。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 25年からこの問題について取り組みを始めた、方向を転じながら取り組み始めたところであります。そして、施設改修も含めやっていかなくてはいけないことがありますし、新商品開発という分野でございます。

そういう意味において、投じた金に対して、成果が、確かに、そういう30万という金額からいけば、明らかに少ないのかもしれませんが、そのことを、可能性というものを民間に流し込んでいくために、今、私どもがやっているというふうに御理解をいただきたいと思っております。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） それは、それでいいでしょう。

1つ、次、飛びますよ。

28年度以降の、このこと。対馬市が展開しようとするのと、加志の施設の方向づけについてですね、全協の資料をいただいております。このカラー刷りのですね。これを見ますとね、ちょっとよろしいでしょうか。昼からある全協の資料。

そして、これ対馬猟友会に一部、理事会の申し入れがございまして、この一部が理事会の中で展開されておりますので、これは議長、了承していただきたいと思います。

ええっとですね、この資料の中の2ページ目の裏にあるんですよ。お手元の資料がありますかね、2ページ目の裏。資源活用、美津島町加志の施設。ここに、まあいろいろなことが書いております。

そして、その施設を指定管理すると。民間の企業と申しますか、そういう書き方しておりますね。指定管理すると。いうふうなことを、方向づけをですね、ここに出されております。

このことにおいて、もう少し、市なりの心意気といいますか、これに対する考え方の整理をして答弁をいただきたい、このように思います。

指定管理の。市長、形のことを言ってるんですが、資料にはそう書いております。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） この内容につきましては、12月2日でしたか、猟友会の理事会において、皆様方にお示しをし、概略、こういう方向性の中で、捕獲補助金も含めいかがでしょうかということで、こちらから投げかけをさせていただいてる案件でございます。

理事会においては、皆様方一定の御理解をいただいたものというふうには思っております。また、このことについて、午後より、議会の皆様方に御説明を申し上げる案件でもあり、また、今のおっしゃられた部分につきましては、来年の3月における当初予算において、指定管理するのかどうするのかということは、また論議をしていただければというふうには思っております。

○議長（堀江 政武君） 大浦議員、ちょっと。今の件につきましては、午後、全協で詳しくその説明もありますので。その辺に限っては、あまり詳しい質問は、ちょっと御遠慮していただいて。

○議員（15番 大浦 孝司君） いや、きょうは。きょうは、28年度以降の市の考え方を、通告に入れておりますから。

○議長（堀江 政武君） はい。はい、ですので、はい、あまりあの……。

○議員（15番 大浦 孝司君） 議長、通告書に入っておりますので。

○議長（堀江 政武君） いや、それはいいんですけど、資料のことを言ってる。午後から詳しい説明がありますので全協で。その件については、あまり、詳しい……。

○議員（１５番 大浦 孝司君） いや、この議場の場で質問することは問題ないでしょう。通告しとるんですよ。

○議長（堀江 政武君） いや、その通告はいいんですけど。質問はいいんですけど今の、それらに基づいてずっとしたら、午後、まだ説明がありますので、詳しく説明されてからなら、こう、また、いいとは思いますが。

それについては、ちょっと、あまり詳しい質問は、まだ内容の説明があっておりませんので、お願いします。

○議員（１５番 大浦 孝司君） 議長。

○議長（堀江 政武君） はい、どうぞ。１５番、大浦孝司君。

○議員（１５番 大浦 孝司君） 今、申し上げたとおりね、対馬獺友会に、この説明の申し入れがあったんですよ。それをもとにやっておりますから、御了承願いますという断りを入れたですよ。

そして、通告書には、２８年度以降の市の方針についてを伺いますと、文書、そう書いておりますから、問題ないと思います。

○議長（堀江 政武君） ですが、その分は言いましたけど、はいと言いましたけど、まだ詳しくはですよ。まだ説明前やから、この資料に基づいて。お願いします。

○議員（１５番 大浦 孝司君） だから、午後からの話じゃなくて、捕獲団体に対馬市から申し出があったことについて、確認取りよるわけですから。それでいいと思います。

○議長（堀江 政武君） 今、言われた分はそのまま、質問はしましたけど、許可しましたけど、詳しい内容の説明はちょっと、それについては御遠慮願いますと言ってるんです。

○議員（１５番 大浦 孝司君） それはおかしゅうないですか、あなた。

○議長（堀江 政武君） はい、いえいえ、この……。 （「休憩してやりゃあ、休憩」と呼ぶ者あり） ちょっと、休憩します。

午前10時24分休憩

午前10時26分再開

○議長（堀江 政武君） はい、再開します。１５番、大浦孝司君。

○議員（１５番 大浦 孝司君） 市長その中で、民間に委託をするというふうなことが説明がございました。

この民間の委託というのは、対馬島のいわゆる希望者を対象にするのか、島外を含めてやるのか、この点をひとつ確認したいと思います。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） この、加志の施設の指定管理の方向性については、その資源活用という視点に立って、衛生管理の普及啓発と解体の代行、それから、解体手続、手順の指導、認定という部分を担ってもらえるところをお願いしようというふうな考え方を持っておりますけども、島内、島外とかいうことまでこちらのほうは、まだ、何も決めているところではございません。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） その中で、猟友会の理事会に説明があったことは、生肉の取り扱い、加工品の取り扱い、販売ということを含めます。それを含めて、1.5人分の人件費の確保、それと、施設の光熱水費の負担を予算計上をする方針という説明がございましたが、これには間違いございませんか。市長でもいい、部長でもいいですが。

○議長（堀江 政武君） 農林水産部長、阿比留勝也君。

○農林水産部長（阿比留勝也君） ただいまお配りしております全協の資料は、あくまでも市が、現在、来年度以降からこういうふうにしたいという御相談の部分でありまして、現段階で来年からこうしますということではありませんし、先ほどおっしゃられました1.5人というものを決めたものでもありません。1.5人相当はどうだろうかということで検討しておりますよということで、御説明をして、御理解をいただきたいということで、全協の資料としておりますので、あくまでもまだ来年からこうしますという方向ではありません。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） そのことであれば、私も理解をできるわけです。

ただ、前回の理事者の会議の折には、今の言葉が出ておりますからそれを確認をする意味でも申し上げたわけで、さらに、全協で突っ込んだ話をしたいと思います。

この、平成26年度の取り組みの中で対馬市は、鹿・イノシシの衛生管理に伴うガイドライン、その指針、こういう方針で臨みますという資料をいただいております。これは、もちろん、先だって猟友会の理事会の折の資料なのですが、その中で2点ほど質問したいと思います。

あの施設の規模、加志の解体する施設の規模でございますが、私が聞いた範囲においては、1日の解体頭数は1頭と聞いておりますが、これは、保健所の協議のもとに伴う施設の解体規模、この決定があつておると聞いておりますが、これ、間違いがないかどうか。

○議長（堀江 政武君） 農林水産部長、阿比留勝也君。

○農林水産部長（阿比留勝也君） 1頭という指定、解体処理場で1頭でなければならないということは聞いておりません。ただ、今現在、実績としてガイドラインにのっとりた解体をしていくと、2頭相当が限度だろうというふうに聞いております。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） それは、保健所に聞きゃわかるんですが、当時行かれた担当の

話の範囲で、1頭という数字のことは私は聞いた覚えがございます。

それと、もう一つ、次に進みますよ。通常の場合、捕獲者が箱のわな、あるいはくくりわなに獲物がかかる。現場で銃なりあるいはその他の用具を使い捕殺、殺処分をするわけですが、現地でその後放血、いわゆる頸動脈の切断をして血を抜くということがございます。

その後、施設に運びます。そこで、皮剥ぎ、解体作業が始まるわけですが、このことについて対馬市の加志の施設においては、生きたままの状態ですぐに入れて解体をしておるというふうな実例を聞いておりますが、何頭くらいの数字を把握しておるか、ちょっとその辺を、部長でもわかっておれば。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今、資料が整ったようでありますので、部長のほうから答弁させます。

（「後で結構です」と呼ぶ者あり）

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） ここの次が大事なところなんです。

解体処理場の許可の中で、現地で放血するということが基本になっております。これは、大量の出血が、施設の中の放流水に非常に問題があるというふうな、保健所の指導の中で、これは恐らく加志の場合、その施設で放血はできないこととなっておると、私は理解しておりますが、部長その辺の理解はどのようにしておりますか。

○議長（堀江 政武君） 農林水産部長、阿比留勝也君。

○農林水産部長（阿比留勝也君） おっしゃられるようなことだろうと思っております。

ただ、先ほどおっしゃられました解体が、約76頭ぐらいしております。これは、あくまでも実証的に、生体搬送した場合に肉はどうか、それと、例えば30分以内に搬送してきて解体した場合どうか、1時間たった場合どうかという実証の中で、現段階では生体搬送したほうがいいと、肉の結果としてですね、ということで実証的に行っておりますので、今後につきましては保健所等との協議も必要かと考えております。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 現状のあり方は、今の思いでやったということは、それで私はいいと思いますが、施設の許可をするという意味は、これは非常に制約がございますので、現地で放血をしないで、大量の血を施設の処理場で流すことはやめてくださいよというふうなことに、私は捉えております。

ですから、ここのところは改善する。ガイドラインの文書の、文献の一部ですが、今30分という数字をおっしゃられましたが、時間が何十分で運びなさいというふうな制限はないと思います。ただし、「内臓を抜かずになるだけ早く処理場に運搬する。その場合、冷却する、氷で冷や

す、低温施設の中で搬入する。」このように書かれておりますので、時間の、部長、制限を今おっしゃられましたが、部長、その時間のことで何か制限を対馬市の場合設けているんですか。

○議長（堀江 政武君） 農林水産部長、阿比留勝也君。

○農林水産部長（阿比留勝也君） 先ほど申しましたのは、30分以内が制限をしとるということではなくて、30分以内にしたいほうがいいだろうということですので、それは、あくまでも制限しとるということではありません。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） それでいいと思います。

ですから、ここで問題になっておるのは施設内の屠殺、要は生きたものを殺処分するということは、これは問題になろうかと思えます。その辺は、保健所と十分協議のうえ適切なことの遵守のもとに施設を運営しなさい。」というふうな書き方をされております。

それでもう一つ、少し踏み込みます。この中に、予算の中にも計上しておりますが、年に1度ダイオキシンの濃度を測る測定委託料が79万円、毎年上がっております。これは、加志のその施設の横に、内臓、皮、骨、頭等の解体した後の、焼却処分を昨年からやっております。以前は、対馬猟友会員が捕獲した死んだものの焼却処分に使っていましたが、市が全面的に同施設を占有するために、それで、一般の利用を禁止しております。

しかし、昨年から産業廃棄物、要は肉を生産する。これに切り替わったわけです。そうしますと、この施設の焼却の基本からいいますと、能力、これ焼くという意味ですが、市長でも結構ですが、この焼却温度、これが施設の許可に大きく関わってくるわけですが、このことについて御存じですか。部長でも市長でも結構です。

○議長（堀江 政武君） 農林水産部長、阿比留勝也君。

○農林水産部長（阿比留勝也君） 済みません、温度のほうはちょっと把握はしてありませんが、おっしゃられるように利用禁止というか、当初の計画自体は、旧美津島町のときに鹿を焼却するということでした。

現在、当初の想定されない頭数がそれぞれ捕獲をされておるということで、当然、加志の施設では、対応ができないということで、現在はその部分で解体をしたもののみの焼却をしております。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 部長、今のことは、考え方はそれで結構なんですが、産業用として完全にこれを燃やすということになれば、従来ですね、例えば旧町時代に美津島町の西海漁協は、養殖漁業の中でへい死した魚の焼却を、組合の近くでやっておりました。ところが、ダイオキシンの係る焼却の制限から全部廃止されまして、この施設を、取りやめですよ。で、加

志の施設もこの温度に到達せんと思います。多分800度を越えた、要は温度で焼き尽くす、燃焼するということがない中では許可しないというふうに、私は聞いておりますが、その辺当初から問題があったように私は理解しております。今になってこんな話を申し上げますが、ガイドラインではこう書いているんですよ、4ページ目に、法令の遵守、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、これに該当するかと思うんですが、ガイドラインの書き方が全ての分野において、パーフェクトな運営をなさいよと、特に自治体が行うことも含めて、その点は法律に基づいた施設の利用をなさねばならないという厳しい書き方をしております。で、たしか焼却温度は800度以上だと思います。

ところが、同施設はそれ以下だと思いますが、私の聞き違い、勘違いがあるかもしれませんが、確認をしてください。今からそういうふうなことに専門的にやっていくには、法のもとをくぐらないかん時代なんです。その辺をきょうのこの場では、結論をつけませんが、調べたうえに同施設の使用が今後可能かどうか、確認をとっていただきたい。そのように思っております。

いろいろ申し上げましたが、最後の、市長も先ほど触れたこと、今から、4年前に本事業が、私、民間事業と申し上げましたが、県のサイドでやろうとしたけどもできなかった、で、全ての補助事業にうまくいかずに、本年度民間の、要は株式会社10名ぐらいの出資の構成で進むように運びがなっております。

私は、市長、こう思っているんですよ、市の方向と民間の方向と手を、やはり話し合いの中で双方が成り立つような、あるいは市の方向は民間を後押しするようなそういうふうな連携の展開というのが一番望ましいと思っておりますが、現在それが、まだ十分連携がとれておらんと思います。今後、このことは再度話し合い等をかなり積み上げないと、今の姿で事が過ぎていけば、私は、うまくいかないことが現場ではあると思いますが、その辺、市長、率直な御意見をちょうときょうは聞きたいと思いますよ。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 新たな取り組みということに対しまして、行政側が足を引っ張るということは全く考えておりませんし、私どもが手を出せない分野まできちんと考えてあることに対しまして、私どもは、その部分について感謝と、そして新たな取り組みに対して敬意を表する次第でございます。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 昼からですね、一般質問が終わって、全協がございます。先ほど、議長ともいろいろ言いましたが、その場でもっと詰めて話さないかんという思いがいっぱいあることを、私もそこで発言することで、時間がまだ残っておりますが、そういうことで一般質問を終えたいと思います。

それから、最後に、阿比留部長のほうでも確認されておると思いますが、最近のイノシシの生息頭数、あるいは捕獲頭数、極端に9月以降激減しております。で、話を聞けば峰、豊玉の一部では、集団的にイノシシが倒れて死骸を複数見ておることを、報告が猟友会の中であっております。

もしかすれば、そういうふうなウイルス性の病気が発生してるんじゃないかと、毎月500頭前後とる数字が100頭台に今下がっております。非常に状況が変わってきておりますので、その辺も十分静観しながら、私は、捕獲する側と市の方向との協議なり話し合い、今後もっとする必要があるかと思っております。時間が少々残っておりますが、私の一般質問はこれで終わりたいと思っております。

以上、ありがとうございました。

○議長（堀江 政武君） これで、大浦孝司君の質問は終わりました。

○議長（堀江 政武君） 暫時休憩します。

再開は11時からとします。

午前10時46分休憩

午前10時59分再開

○議長（堀江 政武君） 再開します。

6番、脇本啓喜君。

○議員（6番 脇本 啓喜君） こんにちは。6番議員、会派協働の脇本啓喜です。

まず、質問に入ります前に、先日金曜日の同僚議員の懲罰動議について触れさせていただきます。

市民は、対象議員のみでなく、もちろん、私も含めた市議会全体に失望されていらっしゃるようです。このことを真摯に受け止めなければならないと思います。前から何度も言っている、市長は以前こう言ったが、この本にこう書いてある、みたいなことを延々と話すのは苦痛でしょう。

私の一般質問へも批判を頂戴いたしました。現在の対馬市を、市議会について、クレームと、揚げ足取りと、自己満足とも評されていまして。大いに反省し、できるだけ建設的な議論が展開できるよう努めてまいりたいと思っております。

通告に従い、まず（仮称）比田勝認定こども園の通園時の安全確保について質問します。

先月11月17日に開催された、保護者をはじめとする市民に対する説明会に、北部地区3名の市議会議員も全員出席させていただきました。用意されていた席では足りないほど多くの方々が御参加いただき、関心の高さを改めて実感しました。